

教育心理学教室教官の研究状況報告

課 題 お よ び 現 況 水 野 欽 司

1 昨年来、統計機械室プログラム・ライブラリの整備を急いで来たが、一応満足できる水準まで到達することができた。これは、46年3月まで教室職員として勤務された萩原克彦、同じとき学窓を巣立った牧野義隆、水谷正らの諸氏をはじめとする人達の共同の成果である。この欄を借りて厚くお礼を述べたい。

今後は更にそれらの充実を期しながら、研究・教育における正しい利用に努力し、その価値を高めて行きたい。

2 かねてからの研究課題である観測データの分類技法の実用化に関しては、教室の小型コンピュータNEAC1240で可能な範囲で、比較的容易にプログラミングできるものから順に試験検討を加えている。その一部は、「系統的項目分類の一方法」（教育学部紀要、17巻）および「多次元数値データの系統的自動分類」（日心35回大会、46年9月）として報告した。

これらの方法の実用化は大型コンピュータの使用を前提としているが、そのような段階に至る以前の検討のためにも大型機種が必要である。幸い46年9月から、全国共同利用施設として名大大型計算機センターが発足し、FACOM 230-60/35が気軽に利用可能となったのを機会に集中的に取り組む予定でいる。

分類の問題は、データの素朴な形を損わないように数理系の不必要な制約をできるだけ除いて行こうとする解

析法と密接に関連している。それらの解析法との一体化を計りたい。

3 45年4月に来名して早くも2年目になる。本年初め東海心理学会に入会し、新入会員として20回大会（46年5月）にて「自動車の運転態度について(1),(2)」（名市女短大、織田揮準氏と共同）を口頭発表した。これは44、45年度の学部3年生対象の「実験演習VI（統計）」の一部として収集・分析された資料に基づいており、演習に参加した諸氏の努力に深く負っている。

4 昨年の紀要のこの欄で、'安易な数量化主義'を排して行きたいと述べ、また'量化を徒らに忌避する姿勢も実践的でない'と述べた。

この一年、計算機の利用者に'問題の意味を深く考えて……、生みのデータをよく読んで……、から計算せよ'と言い続けて来た気がする。そう言いながら、つくづく心理学的事象の研究はむずかしいと思う。意味のあいまいな量化は行なうべきでないが、筋道を通し大胆に量化に踏み切らなければ公共的に交換可能な知識たり得ない。困難ではあるが、自戒することを忘れずにその道を求めて行きたい。

偏狭な数量化批判論者に多いあいまいな概念談議では、科学的成果の統合化も公共的利用も期し難いと信ずるからである。
(1971年11月22日)

内 田 良 男

1. 統計数理について——従来、社会学・心理学・教育学の分野における統計数理について (1)体系化 (2)特殊課題の究明——特に（例えば多次元解析のうちで）記述統計の範疇に止まる諸法の推測統計への展開——を試みている。今後とも継続する。

2. 教育統計について——昭和46年度より教育に関する統計について検討することとし、はじめに教員需給システムの研究をとりあげた。これまでに、名古屋市小中学校教員の最近3年の移動を含む実態を調査し、現在は集計・分析に入る段階である。なお、昭和46年度文部省科学研究費（一般研究、代表者統数研青山博次郎）による

「システムに関する統計的研究」への協力を求められ、これに協力している。

3. 県民性の研究——昭和45年度文部省科学研究費（総合研究、代表者統数研林知己夫）による研究に協力している。これは昭和28年～43年度まで、5年毎で4回行なわれた日本人の国民性に関する統計的研究の姉妹研究である。ここで使われた質問文を基本とし、これに県民性が浮彫りにされるよう修正、補足を施したものをもって質問文とした。予算の都合で頭初の計画を更め、調査対象は岩手県、東京都区部、大阪市、山口県および鹿児島県に限った。結果の分析中である。